

ジャパンインターナショナル シーフードショーを視察して

質問 ジャパンインターナショナルシーフードショーでの各都道府県・市町村及び企業の取組は大いに学ぶものがあつた。当町は八森・岩館に県内有数の漁港を抱え7億円からの水揚げがある。地産地消を原則とした食育や資源の活用等、漁協・行政・商工会等の連携した取組とPRが必要ではないか。

白神体験センターの体験メニューに児童や親子による魚の調理教室等も加えたらどうか。



門脇 直樹 議員

八森小学校では、「海藻おしぼ教室」と「地魚教室」を行っている。授業としてではなく、親子や保護者対象の地魚料理教室を開催することについては、教育委員会や関係者と協議したい。PRについては、商店・食堂等連携し、「地産地

消」ののぼりを作成し、各店舗に掲げたり、「お魚ありがたや祭り」を大規模に地魚PRイベントとして開催することも関係者と協議したい。「地産地消」及び「地産他消」は水産振興の重要テーマとして実践したい。



子どもの頃から魚とふれあう機会が多ければ魚離れや魚嫌いは減るはずだ

母谷山緑地公園を どうするのか

質問 母谷山の裾野に、平成5年に地区林業構造改善事業と簡易保険融資を受け、つくられた緑地公園がある。トイレ・東屋・ベンチ・遊具等や駐車場が整備され、桜の木も50本くらい植えられ花見も楽しめるようになっていたが、ここ数年、手入れもされぬまま草の中に埋もれている状況であり、ベンチや遊具も壊れ危険である。

町では、この公園を今の状態のまま放置してお



柴田 正高 議員

答弁 会場では、さまざまなセミナー、シンポジウムが開催されており、全国各地の水産加工品や流通・小売・外食等の現状を私も視察したが、当町の水産業の可能性を再確認する良い機会であつた。

地産地消の現状としては、学校給食に「ひより会」がホットケ・カレイ・沖ギス・ハタハタを、「(株)鈴木水産」がハタハタメンチカツを納入しており、今後も継続すると共に魚種の拡大を検討したい。

再質問 『白神』や『北限』のネーミングで売出すばかりでなく地域の消費拡大が一番の営業戦略と思う。食も加えた取組については。

答弁 北部支所管内の漁獲量がおよそ1500tで地元消費は2・7%くらいであり、都会に売するためのPR材料としては、『白神』や『北限』のネームブランドも有力な視点である。子どもたちには水産教室を開いたり、大人向けに旬の地魚ツアーを行っ

再質問 自治会が管理

答弁 当時の担当職員に確認したところ、岩子、塙川地域は自主管理が継続されており、事実としては間違いはない。当公園は、少しばかりの手入れでこれが元に戻るといような状況ではなく、今改めて投資をして再整備はしない。



現在の公園(東屋(写真左)と壊れた遊具(写真右))

地域住民の要望のもとに整備され、この施設のほかに岩子地区の栗山への栗の苗木の植栽や塙川地区の高峰山の参道の一部である作業道についても整備されているが、いずれも完成後の草刈りなどの維持管理は地元関係者が行うという合意のもとに実施されたと聞いている。

整備後20年が経過し、この間、ポンポコ山周辺や山村広場が整備され、当施設は一定の役割を果たしたとして、新たな整備は現状では考えていない。

壊れた遊具は撤去も含めて検討したい。トイレは登山者を考慮し、今までどおり町で管理したい。

するとといった覚書や念書がなければならぬはずだと思うが、自治会では「ない」と言っている。当初本当に約束があつたのかどうか疑わしい。

峰浜村当時では、村で何年かは年1回、町で草刈りを実施していた。ここ2・3年どういった経緯で管理されなくなったのか。

答弁 当時の担当職員に確認したところ、岩子、塙川地域は自主管理が継続されており、事実としては間違いはない。当公園は、少しばかりの手入れでこれが元に戻るといような状況ではなく、今改めて投資をして再整備はしない。